

令和4年度 学 校 評 価 報 告

草加市立瀬崎中学校

(令和5年1月25日作成)

1 学校教育目標	3 前年度の成果と課題
<p>自らの生き方を考え、実践する生徒の育成『よりよく生きる』 「ま」…学び続ける生徒 「つ」…強い体をもつ生徒 「な」…仲間を思いやる優しい心をもつ生徒 「み」…みんな仲良く笑顔あふれる生徒 「き」…希望をもち夢に向かって努力する生徒</p>	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
<p>1 わかる・できる・伸びる授業を展開し、基礎学力の定着を図り、学力の向上に努める。 ・「自己肯定感・自己有用感を育む授業改善」「学習形態の工夫、ICTの活用」「幼保小中の系統性の理解を深め、ねらいと指導内容を合致させた単元計画、授業展開を構築する」「授業の5原則」と「学力向上5つの対策」の徹底</p> <p>2 不登校、いじめ問題の未然防止、根絶を目指す取組、道徳教育と教育相談体制の確立、瀬崎中学校区幼保小中・地域・家庭で連携し、安心して安全な学校づくりに努める。</p> <p>3 学習環境を整備し、安全で落ち着いた環境づくりに努める。学習の場にふさわしい掲示・言語環境づくりときれいで使いやすい学校づくりに努める。</p> <p>4 家庭への啓発・連携を積極的に行うとともに、家庭・地域との連携を密にし、期待に応えられる学校づくり、開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>成果</p> <p>○コロナ禍ではあったが、学習活動の継続のために教職員で工夫を凝らし、全体的に学校経営・運営を円滑にすすめることができた。特に教職員による朝の立哨指導を含めた「健康観察」並びに保護者による「愛の一声運動」を計画的に実施することができ、一人ひとりの生徒を全教職員で大切に見守り、あいさつや声掛けを丁寧に行うことができた。</p> <p>○基礎学力向上にむけて、「基礎・基本」の定着のために、長期休業中や定期試験前の補充学習、3教科によるコンテスト実施による基礎学力の向上、予習・復習等の家庭学習の習慣の確立、毎時間のドリル学習を行い成果が上がってきている。オンライン授業等で授業に参加できる形を整えるなど、教育環境面について、安心して安全な学校づくり、授業規律の確立、生徒自身がルール・マナーを主体的に遵守し落ち着いた学習環境を整え、いじめのない、生徒同士がお互いによさや努力を尊重しあう人間関係、などの高い評価をいただくことができた。</p> <p>○研究発表にむけた研究を通して、全教職員が「自らの生き方を考え、実践する生徒の育成」にむけた取り組みを通して学校間・教職員間の情報共有だけでなく、積極的に連携することで各校の学校課題が整理できるようになるなど、取組の成果が出始めている。</p> <p>課題</p> <p>●コロナ禍での学校公開の仕方や三者面談選択制(対面・オンライン)により、保護者が生徒の学校での様子や保護者からご家庭での様子を伝えたりするなどの昨年度よりはできたが、保護者の願や要望にお応えすることができなかった。コロナ禍ではあるが、保護者と生徒の健康、安全を第一にして、家庭がよりよく判断して選択して開催できるように努めていく。</p> <p>●分散登校や部活動停止、新人大会の中止等がある中で、家庭と学校が協力して運動等の活動に前向きに取り組ませた結果であると考えている。引き続き、どのような状況下でも自ら体を積極的に動かし、体力向上に努めることができるよう、意識の醸成を促していく。また本校独自の「健康体力集会」は、今年度も中止となったが、新体力テストの分析、本校の体力課題を踏まえた体育授業での補強運動の実施などを行っていくことで体力の向上、及び体力課題を解決するための方策を生徒自身が選択していけるように、指導をしていく。</p> <p>○●全体的に生徒は積極的にあいさつがよくできている(生徒評価95.9%、昨年比+3.7%)が、保護者は生徒が正しい言葉遣いを含めて、昨年度よりもできている(保護者評価86.7%、昨年比+3.5%)とまだまだ保護者と生徒の間に認識の差があることから、地域などの学校外においても、あいさつを自ら行うことを徹底していかなければならないと考えている。そのために、教職員自ら積極的に声掛けや挨拶の手本を示す、生徒会や学年「あいさつ運動」、部活動生徒による元気なあいさつの飛び交う学校づくりをするなど、さらに対外的な場面において、指導が重要であり、喫緊の課題である。</p>

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 	B	<p>○学校経営目標と方針の徹底のために、今年度もコロナまん延防止のため、朝の健康観察徹底による立哨指導、校支援システムやすぐメールによる即時の連絡など教職員に周知事項の徹底を図ることができた。運営委員会、学年会を計画的に実施でき、先生方の意向を吸い上げやすい環境づくりを構築できた。</p> <p>○校務分掌組織の偏りを見直し、負担軽減や働き方改革を意識して、効率的な運営ができるようになってきた。</p> <p>○会議時間の減少のために、事前に資料を配布しておく、会議に事前準備を行うことができた。</p> <p>○コロナ禍で全校での運動会、けやき祭、自然教室や修学旅行などの感染対策に配慮して、学校行事を行うことができた。</p> <p>●校支援で事前に質問・意見事項を募ることができなかった。以前のように、提案者が事前に訂正し、意見や質問に対する回答を検討しておけるようになったことで会議運営時間の短縮につなげていく。</p> <p>●小中連携について、コロナ禍でほとんどの行事が中止となったが、部活動公開など少しずつ再会できている。しかし地域の交流行事等は実施できなかった。</p> <p>●さらに校務分掌の精選に取り組み、効率的な運営とともに業務改善に取り組んでいく。</p>
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 	B	<p>○目指す生徒像にむけて、授業改善を通して「学力の向上」について、学力向上プランの見直しとともに、県学力調査等の結果分析を活かし学習をすすめるようにした。</p> <p>○WEB授業配信やオンライン会議の推進をより一層積極的に行うことができた。</p> <p>●タブレットの活用について、オンライン授業でも双方向授業型が実現できなかった。また、効果的な活用についての研修を今後取り入れることで、授業改善を図っていく。</p>
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<p>○保健計画、安全計画をもとに、保健指導及び安全教育の充実を推進した。</p> <p>○地域合同の「救急救命法研修会」、「地区参集防災訓練」を実施。AED使用法や心肺蘇生法などを地域の方と共に行った。またいざというときに避難場所として使用できるよう、物品の紹介や市教委によりご指導をいただいた。</p> <p>○危機管理マニュアルを更新した。また、管理職と教職員で毎日安全点検を確実にし、組織全体で対応するなど、適切に管理することができた。</p> <p>○学校運営協議委員は地域の方と協力して登下校の見回りも行い、地域と一体となって生徒を見守っていく体制づくりができた。</p> <p>●安全計画、危機管理マニュアルを最新の安全防災教育に照らし合わせ、改定し、実際に活かせる避難訓練や引き取り訓練、不審者対応を実施できるようにする。</p>

④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	A	<p>○個人情報持ち出し簿などの保管簿、校内規定の遵守と見直しを行い、教頭だより定期発行（週1回程度）と県教職員事故根絶にむけた資料とともに配布し、年間通して教職員事故に対する意識の醸成、教職員MOTTO「未来を創るこどもたち、未来を育てるわたしたち、未来への責任」を意識して、事故ゼロを達成することができた。</p>
⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	A	<p>○地域や県内における不審者発生時に瞬時に、学校メール配信を行い、警察や児相・小学校と連携して、地域・関係機関とともに子供たちを見守る環境整備を構築することができた。</p> <p>○毎月発行「学校だより」は保護者と地域（民生委員、町内会等）に定期的に配布、保護者にはすぐーるで配信するなど、学校教育に対する一定の理解と協力をいただくことができた。</p> <p>○学校運営協議委員会は学校運営に関するご意見、地域と学校がどのように連携していくか、地域の行事への参加、安全教育への提言など、などさまざまなご意見をいただくことで、地域と協力して学校運営にとりくむことができた。</p> <p>○欠席連絡、ワクチン接種届、学校評価等のアンケート等、ネット集計システムを導入し、回収や集計が迅速になったことで、よりスムーズに、直接的に保護者の願を学校運営に直接的に反映させやすくなった。</p> <p>○PTA運営委員会等の会議はコロナ感染対策を講じて、対面で実施することができ、保護者と連携して学校教育を進めることができた。</p>
⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	<p>○瀬崎中学校区として目指す子ども像の共有を校区小学校と行った。小中一貫教育推進委員会を学期に1～2回実施し、小中学校それぞれの授業改善の取組、研究主題や取組の共有、WEB会議等を行うことができた。</p> <p>○小中乗り入れ授業（保体）の取組強化により、中1ギャップの解消、教育相談の小中連携を図ることができ、小中間の情報交換や連携をよりいっそう深めることができた。</p> <p>○新入生保護者説明会をインターネット上で資料の提示、動画配信、質問受付等することができた。また地域の保育園避難訓練での立ち寄りなど幼保との連携が深めた。</p> <p>○部活動見学を実施し、各部活動の取組を自由に参観できたことで、新入学生徒や保護者が入学後の生徒のイメージをつかむことができた。</p> <p>●コロナ感染防止のため、今年度も運動会での合同演技や陸上競技大会前の合同練習、小中相撲大会や部活動体験などにより、生徒、児童の交流を深めることができなかった。次年度は、感染拡大防止対策を実施し、部活動体験や授業体験、小中連携運動会種目は実施していきたい。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<p>○コロナ禍ではあるが、おおよそ計画通りに授業時数の確保をすることができた。特に教育計画・指導要領の各教科・領域の授業時数の確保を図ることができた。</p> <p>○学習指導要領の内容をもとに、学校の実態に応じて年間全体計画、指導計画を臨機応変に対応し、予定通り実施することができた。</p> <p>○体調不良等やむを得ず学校に登校できない、早退せざるを得ないときにはタブレットの貸出、持ち帰りを行い、学びを止めない努力をすることができた。</p> <p>●コロナ禍で計画を考慮し、縮小をせざるを得ない状況が多くあったが、教職員の熱意と工夫により、ほぼ計画通りにできた部分もあった。ICTやタブレットの活用を積極的に進め、生徒の学びをとめないよう策を今後も継続して行っていく。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<p>○自主研修や研究発表会にむけた指導改善に教職員全員が取りくみ、学力向上、自己肯定感・有用感の高揚に向け効果的に指導計画の立案、指導方法の改善・工夫に取り組んでいる。</p> <p>○タブレットの活用を授業で積極的に行い、円滑に着実に計画的に進めることができた。</p> <p>○学習支援補助員を適切に配置し、不登校生徒の対応だけでなく、相談室との連携など学習効果を図ることができた。また不登校生徒が教室復帰を目指して相談室からタブレットにより授業に参加することができた。</p> <p>●コロナ禍で言語活動や生徒同士のコミュニケーションを少しずつ行い始めているが、まだ足りていない。感染防止対策を講じて、状況に応じて活発に行えるようにしていきたい。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的实践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<p>○道徳部会を中心に教材選定や資料作りを行う中で道徳時数の完全実施を図るとともに、教科横断的な学習、各教科との関連を図り、生徒一人ひとりの道徳的实践力の向上を図ることができた。</p> <p>○ローテーション授業での実施や道徳ノートの活用による蓄積で生徒がわかりやすく学べるようになった。</p> <p>○ローテーション授業を進めることでスムーズに授業展開が可能となり、子どもの豊かな心を育成することができた。</p> <p>●扱う題材を熟慮し、計画的に指導するとともに、生徒一人ひとりを大切にされた指導に努め、お互いを認め合い、心を大切にできる指導にあたっていく。</p> <p>●生徒の実態に応じて、全体計画、年間指導計画の見直しを図っていきたい。</p>

④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・生徒会活動 	A	<p>○学級経営は各学級経営計画のもと、計画的に実践することができた。</p> <p>○生徒会活動は、教師の支援を極力減らし、生徒の自主的な運営を行うことができた。特に校則改定という難しい局面でも学校運営協議委員やPTAと協力し話し合いをすすめ、校則を自分たちで守り、よりよい学校生活を送るために、宣誓を各クラスで作成などチーム瀬崎として、学校が一つにまとまるきっかけとなった。</p> <p>○生徒会行事は様々な形に変更しながら、創意工夫し、すべての行事を実施することができた。</p> <p>●コロナ禍で学校行事や集会を1部オンラインで配信するなど創意工夫をこらして全校生徒が集まる機会を作ることは難しかった。引き続き感染症対策を取りながら企画・運営をしていく。</p> <p>●下級生が、様々な行事を経験することができたが、全校生徒が集まる対面での実施は運動会とけやき祭しかしておらず、コロナ明けの対面時に再度指導が必要である。</p>
⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用 	A	<p>○特色ある取組の一つである「性出会い学習」を通して、調べる・体験する・まとめる学習を実践させることができた。また、数少ない学校行事の中で成果を収めることができた。</p> <p>○各学年、計画的に対面での実施形態を工夫することができた。</p> <p>●行事計画の精選とともに、地域人材の活用、物的資源の活用を含めて年間指導計画に少しでも盛り込んでいくようにする。</p>
⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、生徒理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	A	<p>○生徒指導委員会や生活委員会を中心に学習規律の徹底を学校全体で取り組み、落ち着いた学習環境をつくることができています。不用物持ち込みやSNSによるトラブル未然防止のためのポスターを作成するなど生徒の自治集団づくりが実を結び始めた。</p> <p>○教職員が一体となって報告・連絡・相談を密にし、適切に迅速に対応することができた。</p> <p>○年初に生徒指導マニュアルの作成・徹底とともに、年度途中にも再度確認しあい、報・連・相の徹底と共通理解をさらに深める生徒指導であった。</p> <p>○保護者から、学校は落ち着いた環境であり、あいさつができ、生徒がきまりを守り、良さを認め合う、いじめ・不登校をなくす指導について評価をいただいた。</p> <p>●依然アンケートでは、あいさつを自ら元気よくする、自分たちできまりを守り、認め、いじめ、不登校をなくしてほしいという意見もあるので、できていないと意見を胸に、あいさつが活発な学校、いじめゼロを目指して取り組んでいく。</p>

<p>⑦キャリア教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的なキャリア教育 ・指導方法の工夫と改善 ・啓発的経験の充実 ・進路情報の収集・活用 ・職場体験活動 	<p>B</p>	<p>○進路だよりを全学年に配布し、1・2年の段階から将来のキャリアプランや進路選択、人生設計を意識させることで学習意欲の向上や自己実現への取組につなげる指導ができた。</p> <p>○毎週、進路部会を開催することができ、常に最新の進路情報を共有することができた。</p> <p>●1・2年生で上級学校に対するイメージがつかきれてない生徒がいるので、進路だよりとともに、3年生で具体的な進路イメージできるように内容を精選して指導していきたい。</p> <p>●職場体験（1年）、上級学校訪問（2年）はコロナまん延防止で実施できなかったが、調べ学習、新聞づくりにより補充し、成果をあげることができた。生徒一人ひとりが全学年通してキャリア教育を意識して、計画的に進められるようにしたい。</p> <p>●私立出願がネット出願が多く、出願の確実な確認とともに、積極的に見学会や説明会へ参加するよう、より家庭への積極的な働きかけが大切である。</p>
<p>⑧特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	<p>A</p>	<p>○教育相談部会で特別に支援が必要な生徒の一覧や個別支援カードを作成し、特別支援コーディネーターを中心に、毎週情報共有を行い、一人ひとりにあった支援を実施することができた。</p> <p>○通常学級で特別配慮を要する生徒や日本語が不安な生徒など柔軟に対応し、教育支援室と相談室、SC、SSW等と協力して、家庭訪問や面談など組織的に対応することができた。</p> <p>○学校ファームをはじめ、よりよい教育環境の充実のために、敷地内の雑草や樹木剪定作業をするなど奉仕活動を行うことができた。</p> <p>●特別支援教育について多様な生徒への個別最適な教育環境づくりのため、引き続き研修を深め、一人ひとりの発達段階や家庭環境等について適切な支援ができているかを検証していきたい。</p>
<p>⑨学校図書館教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	<p>B</p>	<p>○学級文庫を2年ぶりに再開し、朝読書の充実により落ち着いた学習環境づくりに役立てることができた。</p> <p>○司書教諭と図書館司書による図書室の整備がすすみ、昼休みの貸し出しを積極的に行ったことで、本に親しみやすい、充実した経営ができた。</p> <p>○図書館だよりの発行や季節・長期休業に即した蔵書コーナーの設置や掲示物の充実に取り組み、一人への貸し出し数を着実に増やすことができた。</p> <p>○生徒会予算でラミネーターを購入し、本の紹介をより充実させることで、貸し出し数、読書量を増やすことができた。</p>

<p>⑩情報教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	<p>B</p>	<p>○指導計画をもと、パソコンの扱い方及び情報モラル、セキュリティポリシー等について教職員全体で考える場面を増やすことができた。</p> <p>○タブレット使用が活発になり、行事でのライブ配信、学級閉鎖や登校できない生徒に対する授業配信を行うことができた。特に、オンラインと対面を相互に駆使した学校行事を行うことができた。</p> <p>○学校に通えない生徒に対してオンライン授業を確立することができた。</p> <p>○学校内での取り扱いなどの指導を適切に行うことができた。</p> <p>●配信した動画は、加工や再配信されるリスクがあり、ライブ配信では授業に参加している生徒に配慮ができないなどの理由を伝達していく必要がある。</p> <p>●授業や校務において、ICT機器の積極的な活用を図ることができたが、例えば授業配信においては双方向授業、それによるタブレットの活用レベルアップのための研修を行う必要がある。また、今後の感染状況を踏まえICT機器の活用をさらにすすめ、Zoomによる会議や授業の配信の活用を進める必要がある。</p>
<p>⑪人権教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	<p>B</p>	<p>○計画的に社会の授業を中心に、「動画視聴」や「被差別部落や差別等の資料」を通して人権に対する意識の高揚を図った。</p> <p>○性の多様性、生徒指導との関連を深めた教員の理解を深めることができた。</p> <p>●コロナ感染者・濃厚接触者に対する家族、本人に対する考え方や、接し方について引き続き教育していく必要がある。</p> <p>●情報分野と連携し、情報モラル教育を行う必要がある。SNS等による誹謗・中傷、トラブルが絶えない。それらの被害を含めた人権問題について、教科・領域の計画に含め、人権擁護の意識の醸成を図る。</p> <p>●いじめや不登校生徒、発達障害や性の多様性に関する生徒指導の在り方について、個別最適な学びの促進のために、研修を深めていく。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	学力の向上	基礎・基本の充実 校内研修	B	<p>○「授業の五原則」の徹底により、授業規律の確立が学力向上につながった。</p> <p>○各教科で小テストや単元テスト、単語テストなど細かく生徒に評価をフィードバックすることで、基礎学力向上や基礎基本の定着をめざすことができた。</p> <p>○幼保小中一貫教育を通して、校種移行時のスムーズな指導やつまづきなどの情報交換を行うとともに、「標準カリキュラム」などを参考にしながら系統性を持った授業展開を行うことができた。</p> <p>○自己有用感、自己肯定感を育む授業改善を全教員が自主研修を行ったことで、学力向上させる授業改善に努めることができた。</p> <p>●家庭学習の習慣の定着にはまだまだ課題がある。各授業などで生徒が自主的に取り組んでいけるような課題の設定などを考えていきたい。</p>
	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・時間を守る ・学習環境の整備 ・授業の5原則 	A	<p>○「礼をただし」「場を清め」「時を守る」のさらなる定着がみられた。各学年「3分前着席」の声掛けを生活委員や学級委員といった生徒の自治運営組織づくりによって主体的に「よりよく生きる」ための方策を探って、実行することができた。また、生徒による発案で効果的な掲示物等、学習環境の整備について意識して取り組むことができた。</p> <p>○授業の5原則、自習の3原則がどの教室にも掲示されており、ユニバーサルデザイン化を図ることができた。</p> <p>○「3分前着席、接触プレー禁止」を声掛けすることにより、全校集会、学年集会、各行事等において秩序正しく望むことができた。</p>
	健康・体力	<ul style="list-style-type: none"> ・健康集会 ・部活動 ・性教育 	A	<p>○各学年「性出会い学習」等で命の大切さや健康に過ごすための意識を高めることができた。</p> <p>○コロナ禍ではあるものの、運動会や学総、新人戦などができるようになり、クラスや学年、部活動の仲間たちと一生懸命取り組むことができた。また体育授業や部活動を通して体力向上とともに豊かな体を育成することができた。</p>

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- 教職員が瀬崎中生徒一人ひとりを取り残すことなく、授業改善や対話等でよりよく生きる力を身に付けさせたいという意識を持ち、生徒自ら課題解決能力を身につけ、目指す学校像・生徒像に向けて取り組んでいく。
- 学校、家庭、地域が一体となって校則改定について考えたり、地域と協力した防災訓練を行うなど、地域との協力関係を強めることができた。また学校の各種行事やHP情報や各種便りなどの情報配信メールの活用を行うことができた。
- コロナ禍ではあったが、学校行事や学習活動の実施実現・継続のために教職員が一つとなって創意工夫を凝らし、学校経営・運営を円滑にすすめることができた。
- 基礎学力向上にむけて、「基礎・基本」定着のために、長期休業中や定期試験前の補充学習、3教科学力コンテストによる基礎学力の向上、予習・復習等の家庭学習習慣の確立、毎時間のドリル学習を行い徐々に成果が上がってきている。さらに、何らかの理由でやむを得ず学校に登校できない生徒に対して、タブレットを持ち帰ったり、相談室等の別室にて、オンライン授業等で授業に参加できる形を整えることができた。
- 今年度も教職員による朝の立哨指導を含めた「健康観察」、PTA協力による「愛の一声運動」（あいさつ運動）を計画的に年間を通して実施することができ、一人ひとりの生徒を学校・地域で一体となって大切に見守り、あいさつや声掛けを丁寧に行うことができた。
- 「性出合い学習」は、本校の特色ある教育活動であり、学年単位で対面やオンラインで実施することができた。特に講師から直接教わり、体験活動も再開できたので学習したことを、身をもって体感させることができた。今後もリモートや対面を駆使して、命の大切さや人権教育につながる教育を推進していく。
- 埼玉県・全国学力学習状況調査結果から学習の着実な伸びが見られ、学力の向上が図ることができた。家庭学習の充実を主眼に、基礎学力の向上を通じた自己肯定感・自己有用感の高揚のために、校内組織で調査を分析し、より充実した学習環境を整備するよう、継続して取り組んでいきたい。
- 教育環境面について、安心で安全な学校づくりや、授業規律の確立、生徒自身がルール・マナーを主体的に遵守し落ち着いた学習環境を整え、いじめのない、生徒同士がお互いによさや努力を尊重しあう人間関係、などの高い評価をいただくことができた。この評価を謙虚に受け止め、「よりよく生きる」生徒の育成のために、学校全体で取り組んでいくことが重要であると考えている。
- 幼保小中と連携して中学校区全体で「自らの生き方を考え、実践する生徒の育成」を目指し、計画的な自主・教科別研修に取り組むことができた。研究主題である「自己肯定感、自己有用感を育む教育」の推進を柱に、小中連携会議を積み上げることで、学校間・教職員間の情報共有だけでなく、各校の学校課題が整理できるようになるなど、取組の成果が出始めている。

6 次年度の改善策

- 校内での取組
 - ・生徒指導について、授業規律の確立を通して生徒同士、生徒と教職員との関係も年々向上し、信頼関係が築きあげることができつつある。今後も個別最適な学びの充実にもむけて、一人ひとりに寄り添い、自律のための教育支援を実践していく。そのために、教職員が日頃から生徒の発達段階に応じた効果的な指導方法や授業改善に取り組む。特に、学校評価（保護者）で「教師は生徒の実態を理解し指導方法を工夫し、わかりやすい授業を行っている」、「教師は学力の定着を図る工夫をしている」の項目において、昨年度より高い評価をいただいた。生徒一人ひとりが全員授業やクラスで活躍できることを通じて、自己肯定感、自己有用感を育む指導力を発揮できること、そしてオンライン授業をさらに深めていくことで、一人も取り残さず人間育成を推進していく。生徒の実態に応じた、全員への公教育の実現を図ることができるよう、自己実現につなげる生徒指導が図れるよう工夫・改善及び研修の取組をしていきたい。
 - ・学力向上については、今後も学校としての最重要課題として捉え、中学校区で一体となって目指す子ども像に近づけるよう育成していく。また、中1ギャップや不登校生徒の撲滅を目指して、自己肯定感や自己有用感を育む教育の実践と研究をさらにすすめ、より「幼保小中一貫」を意識した連携をより深められるよう、継続して15ヶ年の学びのカリキュラムを実践していきたい。
- 校内研究組織（学力、健康・体力、豊かな心部会）を中心に組織全体で課題解決に取り組めるよう、一層の研修に励み、学校全体で推進していく。
- 安全な環境を整えているかについて、生徒評価80.3%（昨年比-7.4%）、保護者評価89.3%（昨年比-2.2%）と校舎の老朽化についてのご意見が多かった。安全点検を定期的実施し、修繕を積極的に行い、教育環境の整備、美化に取り組んでいく。
- 学力・学習面について、朝読書や家庭学習に意欲的に取り組んでいるが、生徒評価75.3%（昨年比-2.7%）、保護者評価83.2%（昨年比+3.4%）と生徒と保護者の認識に差がある。生徒自身、厳しく前向きにとらえている意識が感じられるので、教師として学習習慣の確立と基礎学力の定着に向けて効果的な指導をしていく。
- 全体的に生徒は積極的にあいさつがよくできてはいる（生徒評価95.3%、昨年比-0.5%）が、保護者は生徒が正しい言葉遣いを含めて、昨年度よりもできている（保護者評価86.8%、昨年比+0.1%）と、保護者と生徒の間に認識の差がある。学校や部活動だけでなく、学校外においても、あいさつを自ら行うことを徹底していかなければならないと考えている。そのために、まず教職員が手本を示し、自ら積極的に声掛けや挨拶を元気よく目を見て、はっきりと行うとともに、生徒会や学級委員を先頭に「あいさつ運動」、部活動生徒による元気なあいさつの飛び交う学校づくりを行っていく。
- 保護者評価「生徒は体力向上に向け、体育や部活動に意欲的ですか」について、おおよそ意欲的である（87.5%）が、昨年度より上がった（+0.8%）。しかし、生徒評価では昨年度より0.3%下がった。また健康の維持向上にむけ規則正しい食事を心がけ、健康な生活を意識したことについて、保護者評価で昨年度より1.5%向上したのに対して、生徒は-1.6%と課題としてとらえている。引き続き、どのような状況下でも自ら体を積極的に動かし、健康を保持増進させ、体力向上に努めることができるよう、意識の醸成をしていく。また本校独自の「健康体力集会」は、を通して、新体力テストの分析、本校の体力課題を踏まえた体育授業での補強運動の実施などを行っていくことで体力の向上、及び体力課題を解決するための方策を生徒自身が選択していけるように、指導をしていく。
- 昨年度の反省を踏まえ、コロナ禍での学校公開の仕方や三者面談形体の選択制（対面・オンライン）により、保護者が生徒の学校での様子や保護者からご家庭での様子を伝えたりするなどの昨年度よりはできたが、保護者の願や要望にお応えすることができなかった。特に、「学校の様子を保護者や地域に伝えていきますか」について、昨年度より評価は上がったが（+3.5%）担任と顔を合わせて話をすることの重要性を常々感じている。コロナ禍ではあるが、保護者と生徒の健康、安全を第一にして、家庭がよりよく判断して選択して開催できるように努めていく。

